

国立大学法人室蘭工業大学

環境・エネルギーシステム材料研究機構との学術・研究交流協定締結について

八戸工業大学地域産業総合研究所 四 竈 樹 男

平成 28 年 2 月 2 日、八戸工業大学において、上記協定の調印式が、室蘭工業大学から香山晃機構長、中里直史助教、柳谷絵里特別研究員、本学からは、藤田成隆学長、齋藤正博教授、佐藤学教授、四竈樹男地域産業総合研究所長、及び大野和弘社会連携学術推進室課長はじめとする社会連携推進室員の出席の元に行われました。調印式の様子は地元二紙に翌日掲載されました。協定の内容は以下のものです。

この協定書は、両研究機関（以下、両組織）での学術・研究の相互交流を促進し、教育・人材育成に加えて地域の活性化に寄与することを目的とする。

この協定は、両組織の自主性を尊重し、相互の独立性の下で情報交換を進め、環境・エネルギー・材料をキーワードとして幅広い工学分野で相互理解に基づき学術・研究面での交流を促進することを目的とする。

両組織は、次の事項について協力することに合意する。

- a) 教育・研究に関する教職員及び研究者の交流
- b) 学生の交流
- c) 共同研究開発及び研究集会等の実施
- d) 教育研究設備の相互有効活用
- e) その他

また、当日の四竈の挨拶文を以下に転載いたします。

本日はご多忙の中お集まり頂きまして真にありがとうございます。

日本が大きく変わろうとしている昨今、大学も新たな枠組みの中で大きく変わることが求められています。八戸工業大学はいち早く、大学の持つ知的財産、知的活動能力を地域の振興、地域に必要とされる人材育成に活用すべく学内の機構整備を進めてきております。

この機構整備の一環として附置研究所は昨年四月に地域産業総合研究所と名前を改めました。新たな出発からまだ一年もたたず、附置研究所としての活動が不十分であることは専任教員として強く自覚するものではありませんが、新たな活動の一つとして、八戸工業大学の自主性を基盤としつつ外部の大学、研究機関との連携の可能性の模索を始めております。

この活動の大事な第一歩として本日、室蘭工業大学 環境・エネルギーシステム材料研究機構との間で学術・研究協力協定が締結される運びとなりましたことを大変幸いに存じ上げる次第であります。ここに甚大なご助言、ご指導を賜りました室蘭工業大学環境エネルギー・システム材料研究機構 機構長であられる香山晃機構長をはじめとする室蘭工業大学関係各位に心よりの御礼を申し上げます。室蘭工業大学とは既に研究者交流、研究機器相互利用などで着実に研究交流の実績を積み上げてきておりますが、これを契機に更なる研究交流が進むことを確信しております。また、近いうちには、学生交流などを通じた教育交流を含む全学的な学術・研究協力へと連携を深化させるべく努力する所存であります。更には、三八地域と室蘭地域との包括的な地域協力の中核としてこの二つの教育研究機関が活動していくことを祈念しております。今後ともご協力、ご指導の程を宜しくお願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

写真は調印の様子です。

なお、本連携は実質的には既に始まっており、着実な成果を挙げつつあります。成果の一部は本紀要に香山晃機構長、中里直史助教より投稿いただいております。

これを契機として地域産業総合研究所は他機関との連携を更に深めていきたいと考えております。



調印式の様子、左から、本学 佐藤学教授、齋藤正博教授、藤田成隆学長、四竈樹男教授、室蘭工業大学 香山晃教授、中里直史助教、柳谷絵里特別研究員



調印を終えての握手、本学 四竈樹男地域産業総合研究所長、藤田成隆学長、室蘭工業大学 香山晃 環境・エネルギーシステム材料研究機構長